

従業員？ 否、私達は車生産に アイデアと努力を傾ける“仲間”です

イヴォンヌ・
マッキーン



ハイスクール卒、26歳、1児の母。1989年Honda of CANADA MFGに入社、ゾーン3所属、シートベルトや内装品やテールランプの取付けなど、アッセンブリーラインで最も早く動くプロセスの部分担当。スタート・アップ・サークルの一員で工場長賞を1992年春に獲得。

杉田 「ホンダ」は誰でも知っていましたが、トロント市から北へ車で約1時間、アリストンに工場があるのは、インターコンチネンタル・ホテルでも、ホテルで頼んだ車の運転手も知らない。「アリストン？」ですって。

イヴォンヌ 最近は湖沼の釣りなどレジャーキャンプを売出し中（笑）ですが、畑と酪農の典型的農村ですから。すぐわかりましたか。

杉田 なだらかな丘陵地帯でしょう。運転手さんはグルグル回り道。大きな工場を目の前にして「なんでこれが遠くからわからなかったのか。「秘密工場」なのかな。アメリカの自動車工場とは違うねえ」。建物から土地に溶け込んでいるように見えましたよ。

イヴォンヌ 工場の操業開始は1986年。たしかその翌年から土地の収穫祭に参加したり、毎月1回、日曜日に、誕生日の社員のほかにゲストとして夫や妻、両親、友人などが出席できる会社主催パーティを催したり、社長はじめトップと家族ぐるみで社員が歓談する会社は、少なくともこの近くにはないと思います。

杉田 入社は1989年？

イヴォンヌ 今でも忘れません、11月13日。なにしろ1万人近くも応募者があったのですから。現在の従業員——ああ、ホンダでは従業員とか労働者とかいわないんです。アソシエーツ（職場仲間）というのですが——約1,500人。私はラッキーだったんです。

杉田 担当のお仕事は？

イヴォンヌ 「ゾーン3」所属。シートベルトや敷物などの内装品やテールランプの取付けなど。流れ作業でも最も早く動くプロセスの一つです。

杉田 作業衣は白、帽子は白とグリーン。見るからに明るくて清潔で……。

イヴォンヌ 作業衣は毎朝洗濯したての綺麗なのを着ます。洗濯？ 会社でやってくれます。週5日制ですから一人5着ということですね。

杉田 お給料は？

イヴォンヌ 平均日給150ドルちょっと。この辺ではグッド・レベル。単純には比較できませんが、保育の仕事をしている母は時給25ドル程度ですから。それにしても州税8%、GST(Goods and Services Tax)7%、最低15%は差引かれちゃう。ここは先刻もお話にてた田舎（笑）なのでトロントなどより物価はかなり安く、住みやすいには違いないのですけれど。

杉田 お子さんがいるとお聞きしましたが。

イヴォンヌ まだ15か月。働いている間ですか？

主人の母が面倒を見てくれています。私って本当にラッキー。そもそも私はお料理や家事より車が好き。アメリカ風にいえば“GIジョー”的なんです。組立課のアソシエーツにはざっと女性が50人いるのですが、皆さん車好きなことでは私と似たり寄ったりですね。

杉田 それにしても会社と“性が合う”か合わないかということがあつてしょ。

イヴォンヌ 収穫祭や誕生日パーティなどは、会社自体がこの土地や土地の人と“性が合う”のを目指していますよね。では私達の方はどうか。第一にアメリカはもちろんカナダでも景気によってレイオフは当たり前なのに、「ホンダ」ではその心配がない。安心感ってそれは大事なものです。第二になにかの形でアソシエーツ全員が工場の運営の改善に参加している。私を例にとれば“スタート・アップ”サークルの一員。これはオン・ライン組立機構の改善に取り組むのを主眼にしています。この工場から年内に新型車を市場にデビューさせるのですが、それに備えたオン・ラインの準備訓練などのプレゼンテーションで、私達のサークルは“工場長賞”をこの春に獲得しました。

Employee? No! We are “associates” *YVONNE McKEEN* devoting ideas and efforts to our car production

杉田 他にはどんなサークルがありますか。

イヴォンヌ カイゼンをご存知ですか (笑)。私、初めて知った難しくて簡単な日本語。改善プログラムでは安全・品質・作業能率、作業環境に取り組んでいますし、プライド・プログラムでは清潔。日本語ではプライドの誇はダストの埃 (ほこり) と同じ発音なんですって! (笑)

杉田 それでは勉強もしなくっちゃ。

イヴォンヌ 本当! でもなにしろ“GIジョー”的なんです。環境やエネルギーなど問題は一杯あるにしても、カナダのように広くて冬の厳しいところでは信頼できる車が欠かせないのは絶対的なことですよ。

杉田 コンピュータも勉強して、そうねえ、例えばチーフエンジニアにでもなっても……。

イヴォンヌ いえいえ、私はそういう気はありません。もちろん、コンピュータの知識は必要です。主人と話をしたり、時には教えてもらったりもしていますけれど、学校に通って専門的に勉強しようとまでは思いません。

杉田 以前、ドイツでボルシェの工場を見学した時に、私が出た女性エンジニア——おばさんといったほうがいい年齢の方でしたけれど——が「いつまでも現場で機械に取り組んで、コツコツと働いていた。チーフになりたいとか、なろうとか考えたこともない」という話をしてくれたことがありますけれどね。あなたもこのおばさん派なのかしら?

イヴォンヌ ボルシェで? いつまでも現場で働きたいという女性が? ウーン、そのおばさんほど長くはまだ働いていないからハッキリいえませんが、そうですね、街で走っているホンダを見て、あれは自分が手がけた車なのだと思うのは、本当になんともいえない気持。車を作るって、それをみんなが走らせているって、そこに自分の手が入っているって、いつまでも続けたい仕事だなと思わせるのは確かですね。それはそうと工場内はもうご覧になったのですか。

杉田 これからなんです。あなたが先刻いついた

新型車が午後にはカバーを外して全員が見てみるのだとか。

イヴォンヌ そう! 特別の日、エキサイティングの日。CIVICの2ドア・クーペのテスト車を担当者達がチェックするんです。これからはいまの製作車、製作ラインに新車が併行しますから、いま以上に活気が出てくるでしょう。働くのが楽しみ!

杉田 先程、食堂でランチをご馳走になりましたね。喫煙席が別のほかは男女一緒。服も帽子も同じなので、ちょっと見たのではわからないくらい。男女差別だのセクハラなどは……。

イヴォンヌ 全然。カナダはもうよくご存知のようですからおわかりでしょうが、もともと人種も性別もさして問題とされない。まして工場、それも人間が命を預けて乗る車、それなしには生活できない車を、いまのタイプで10万台年産しているのに、そんなことをチラッとでも考えること自体“安全”じゃありません。

杉田 本当ね。タクシーから大型観光バスまで女性運転手は珍しくない。それはそうとこうして働いているあなたのご主人は?

イヴォンヌ 喜んでいます、と確信しています(笑)。彼は酪農場の監督者。対象が自然と家畜で、車の私とはまるで違うという人がいますけれど、彼は“安全”や“環境”では結局同じだといっています。

杉田 ではこれから新型車を拝見。あなたがそれに毎日取組む姿を想像しましょう。有難うございました。

トロントから北西に94キロのアリソンは、なだらかな丘陵地帯。故本田宗一郎さんが大好きな田園風景でここにホンダの工場を決めたとか。特別な技術職などでないごく普通の“働く女性”とお話したい——というのが唯一のお願いで、お会いしたイヴォンヌ・マッキーンさん。よく話し、よく笑い、活発で、カナダではごく普通のヤング・ママ。ごく普通でも、そもそも“働くこと”への姿勢で日本とは異なるところがあるように思った。

(1992年7月30日、カナダ・アリソンのホンダ工場にて実施 インタビュアー：杉田房子)